ともに。

60th ANNIVERSARY

2015

献上桃の郷

自然と歴史と文化のふるさと

桑折町

町制施行60周年記念誌

ともに。

桃の花咲く美しい風景。
先人が育んできた歴史の面影。
そこには、桑折で暮らす人々の
英知が集まっています。
長い歴史を刻んできたのは、人。
そして未来を拓いていくのも、人。
今の桑折町を動かしていくのは、
ここで暮らすかけがえのない仲間です。
ともに。
私たちには、ともに歩んで育みたい
大好きなふるさとがあります。

町制施行60周年を迎えて

桑折町長
髙橋 宣博

桑折町は、昭和30年1月1日に、旧桑折町、睦合村、伊達崎村、半田村の1町3か村が合併し、現在の桑折町が誕生してから今年で60周年を迎えました。

この間、伝統ある歴史と文化、恵まれた自然環境を守り、さらに活力ある町に育て後世に引き継ぐため、町民の心と力を合わせ、まちづくりを進めてきた所であります。

しかしながら、平成23年3月11日発生した巨大地震とその後の原発事故は、家屋や道路の損壊など甚大な被害をもたらすとともに、加えて、放射性物質による町土の汚染という町政史上まさに国難といえるべき事態に陥りました。本町においては、いち早く桑折町総合計画「復興こおり創造プラン」を策定し、計画の着実な推進を図りながら、未曽有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた「こおり新時代」の実現に向け、一歩一歩、確実に復興・再生の歩みを進めてまいりました。

発災から、3年10か月が過ぎた今、ようやく復興の槌音が皆様に届く所となった事は、町民の御理解と御協力の賜物と御礼申し上げます。

今後とも、すべての町民が復興を実感でき、生涯にわたって住み続けたいと思える夢と活力ある「ふるさと桑折」を力強く創造してまいります。

思えば「平成の大合併」の潮流に流されることなく、「単独立町」の道を町民皆様とともに歩んできた事は、大変意義深く、加えて国難と言うべき事態に遭遇した今、その選択は、誤りでなかったものと確信しております。

「温故知新」（古きをたずねて新しきを知る）―この度編んだこの記念誌を通して、あらためて、本町の歩みに思いを馳せるきっかけになれば幸いです。そして、今日までの記憶と記録を風化させることなく、しっかりと次代を担う子どもたちへ継承することで、先人からの「桑折のまちづくり」は引き継がれるものと信じてやみません。

結びに、町制施行60周年に臨み、先人に感謝を捧げ、未来人に夢を贈りごあいさつといたします。

夢人対談
今を見つめる。明日をひらく。

桑折町の誇りを未来へ

私たちの桑折町には、ここで暮らすみんなが
大切にしている宝物があります。
守り抜くべきもの、そして新しく切り拓いていくものを
見据えながら、町で暮らす様々な立場の方の
明日への夢を語っていただきました。

桑折町商工会 会長
本間 健雄（ほんま たけお）
商工業の立場から、人々の新しい発想と行動力に未来の可能性を見いだそうと考えている。

JA 伊達みらい 代表理事組合長
安彦 慶一（あびこ けいいち）
農業の立場から、桃源郷の景観やおいしい桃の生産を守り続ける未来をめざしている。

桑折町教育委員
安齋 恵子（あんざい しげこ）
母親の視点で、親子がまちで働き、暮らしていける環境づくりを願っている。

NPO法人 ささえ愛「ふらっと」 理事長
室井 弥生（むろい やよい）
福祉の立場から、まちの人々が共に支え合う暮らしづくりを模索している。

まちの誇りは人々の手による「継続」がその源泉

町長　「桑折町の良さ」というのは、外から来た人の方が良く見えるのかもしれないですね。そこでまずは、嫁いできた女性の方からお話を伺いたいです。

室井　桑折町でいちばんいいなと思うのは、やはり文化です。先人が培ってきた歴史を、現代まで受け継いで、私たちが文化として受け取っていると感じます。そこに、右往左往しない重みや底力を感じるんです。嫁いできて、一番初めにびっくりしたのが、諏訪神社のお祭りが大変にぎやかなことでした。あれほど子どもからお年寄りまで一緒に楽しむ、という機会はそれまでありませんでした。私の子どもも参加させてもらって、とても楽しい思い出ができてよかったなと思います。

本間　私も地元の若連で長年携わってきましたが、お祭りって、自然と若者が集まってくるんです。周りの人もそうだし、町の雰囲気がお祭りの時は一つになる、そういう自然発生的な部分が結構多い。若者はみな、各若連の方に自主的に入ってきます。それはやっぱり伝統という気がします。小さい時からそういうものだと思っていますから。

町長　諏訪神社の例大祭は、私が若い時には、一部の地域しか山車を出していませんでした。そこで他地域からも「見るだけでなく参加したい」「若い人たちの手で盛り上げていきたい」と、祭りを通じて地域おこしをする、という思いで各若連が自前で行うようになり、現在の形になりました。始める前にはここまでになるとは思っていませんでしたが、いまでは桑折町の夏の最も大きな風物詩の一つになりましたね。

安彦　夏といえば、桑折町の自慢「桃」の最盛期を迎えます。春、阿武隈川の堤防から半田山を眺める、その素晴らしい景色は誇りです。桃の花が一斉に咲いて、すっきりとした半田山が見える。これが桑折町の最高の宝だと思います。

町長　花はもちろんのこと、高品質なおいしい桃をつくり続けてきた生産農家の皆さんの努力と卓越した技術が、平成6年から21年間連続して天皇家・宮家に桃を献上できた、という大きな誇りにつながっていると思います。

安彦　桑折町では、おいしい甘い桃を消費者に届けるために、全国的にもいち早く糖度測定付きの光センサーを導入しました。安全・安心を原点に、おいしい高品質な桃づくりで商品の差別化をしていこうという流れで生産してきました。

本間　献上桃は、全国的にもブランド力がすごいんです。「献上」というのは、そんなに数はないそうなので。これを活かして例えば「献上桃大福」など、年中コンスタントに売れるお菓子などの6次化商品をつくれればいいな、と考えているところです。

安彦　つくることを止めない、継続する、というのは桑折町としての大きな力があったからこそ、と思います。震災の年も休まず献上できたんですから。継続は力ですね。

髙橋宣博町長

支え合い、夢に向かって生活していける暮らしに感謝

町長　桃の生産と同じように、途絶えさせてはいけない部分として、福祉・教育の問題があると思います。この点はいかがでしょうか。

室井　私たちは、配食サービスの事業を10年続けてきました。その中で、震災があったことで状況はやはり変わりましたね。高齢になってもこの町で住み続けたい、という思いが事業の原点だったのですが、3・11でかなり配食の数は減りました。その後また多くなり、一度避難した方が戻っているという状況が読み取れます。これからは地域の一人ひとりが、ある時は配食を支えて、ある時は逆に支えてもらうような、そんな形での町民としての生活ができたらいいのではないでしょうか。

安齋　震災当時は小学校の体育館に避難しまして、子どもたちに温かい言葉をかけていただいた事が本当に身にしみて、前に進もうという気持ちにつながったのだと思います。除染も丁寧にしていただき、今では子どもたちも外で遊んできて、「今日は何があった」ということを親に話してくれて、将来の夢なども自分からするようになったということは、未来の夢に向かって前向きに生活しているんだな、と本当に親として実感し、感謝しております。

住んでよかった、そんな未来のまちづくりを

町長　あの巨大地震を経験して、これからはそれを克服し、新しい時代を切り拓かなければならないと思います。皆さんの未来に向けた思いをお聞かせ下さい。

本間　震災を機に閉店した店が何軒かあります。この対策はやはり、各商店の自助努力に尽きるのかなという気がします。何かアクションを起こすしかない、という気持ちをみんなに持っていただく、そんな環境づくりが今の課題だと思います。

町長　先だって開催された「ふくしまバーガーサミット2014in桑折」、これは商工会青年部の諸君が長い間準備をして取り組んできたものですが、どうですか？

本間　最初は「バーガーで人を呼べるのかな」という思いが頭をよぎりましたが、若い発想で、ふたを開けてみたらあのような人出があった……正直言って脱帽しました。小さな町でも知恵をしぼれば、これだけの事が出来るんですね。やはり今の人の時代のニーズを捉えた発想も必要だと思いました。

安彦　いま、農業従事者は高齢化で担い手がいない、という問題に直面しています。10年後、15年後に桑折町の桃、素晴らしい桃源郷をどう守るのか、というのは「オール桑折」でいけば、ある程度継続できると思っています。たとえば勤労者の方が定年を迎えたら、桃を手伝いましょうか、といった形をつくる、子どもには食の教育の中で桃について教えるなどの取り組みをすれば、続いていくと私は思っています。他地域からの参入も必要かもしれませんが、まずは桑折の地元から。これが大事かなと思います。特に子どもたちには自然、そして農業にふれてもらいたいです。

室井　私たちの活動に、願わくは男性の方やお子さんにも関わっていただきたいですね。自分で実際に活動して体験したことは忘れないし、次につながると思います。お父さんお母さんがそういう活動をしているのを見て、自分たちも…といった思いにもつながるのかな、とも思います。それと「オール桑折」で取り組むために、各団体がそれぞれの分野で活躍されているその力を、どこかで大きく集めて活用できれば、もっと大きな力で桑折町を動かすことができるんじゃないかと思います。

安齋　桑折町でずっと暮らしていくためには、例えば町のブランドとして桃の加工品などの工場を立ち上げて、雇用を創出したり、また若い人たちに桃生産に携わってもらって、ここで子育てをしていただく、といった考えもあってよいのかな、と思います。「親子でこの町で生活していける」という環境を確保していくのは大事かなと思います。

本間　やはり人口が増えるのが一番の望みです。そして子どもからお年寄りまで安心して住める町であってほしいと思います。

安彦　いまの農村の原風景を残したい。歴史もあるし、そういった桑折町独自の良さを残し、町民のための町であれば、何も言うことはありません。

室井　町民がここに住んでいて楽しいまち、それがいちばんの原点だと思います。誰かを支えるときもあれば、誰かに支えられて暮らすこともある、という思いで生活できる町であってほしいです。

安齋　思いやりの心がいちばん大事だと思います。そういう気持ちがないと、震災など大きな事が起こった時に、自然と助けようという思いにならないんじゃないでしょうか。そういう気持ちを育んでいきたいです。

町長　桑折人として、優しさや思いやりをもって、原風景や歴史的景観を守りながら、しっかりと子どもたちのためにふるさとを伝えていくのが我々の使命でしょう。本当に桑折町に住んでよかった、と思えるようなふるさとを実現するために、ともに頑張っていきましょう。

夢人対談
今を見つめる。明日をひらく。

その歴史は、
まちの宝物。

60年の歩み

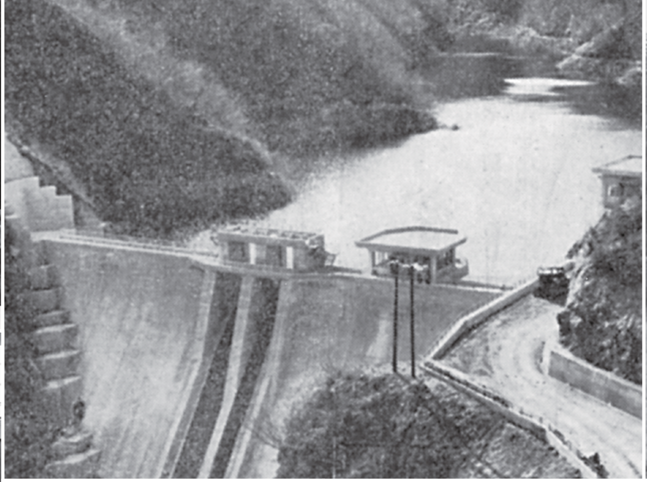
連綿と止まることなく続いてきた

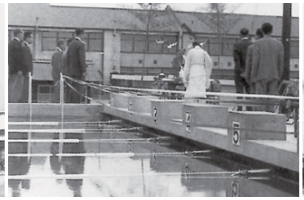
人々の営みが、まちの歴史を刻んできた。

その一日一日が、私たちの宝物。

まちの日々の歩みを、私たちは忘れない。

未来の新たな歴史を刻んでいくために。





1955 昭和30年 ◀ 1974 昭和49年

誕生期

桑折町が誕生。施設整備が進み、
広域行政サービスもスタート

1955【昭和30年】
- 1月 ● 旧桑折町・睦合村・伊達崎村・半田村が合併、新生桑折町が誕生
- 2月 ● 合併後初の町長選挙、初代町長に早田傳之助氏就任
- 3月 ● 国保直営診療所開設(下郡)
- 10月 ● 町議会議員選挙、旧町村から選出する方法で実施

1956【昭和31年】
- 3月 ● 旧3村の村役場出張所が廃止

1957【昭和32年】
- 7月 ● 国道4号建設工事開始
- 11月 ● 役場庁舎完成・移転、新庁舎で執務開始

1958【昭和33年】
- 4月 ● 桑折醸芳高等学校設置

1959【昭和34年】
- 2月 ● 2代目町長に宍戸房吉氏就任
- 10月 ● 町議会議員選挙、大選挙区制で実施

1960【昭和35年】
- 7月 ● 伊達地方衛生処理組合設置

1961【昭和36年】
- 1月 ● 国道4号町内全線開通
- 4月 ● 睦合・伊達崎・醸芳中学校を統合、新醸芳中学校となる
- 9月 ● 広報こおり第1号発行
- 11月 ● 醸芳中学校校舎増築工事完成

1962【昭和37年】
- 4月 ● 農業構造改善事業(ほ場整備)開始

1963【昭和38年】
- 4月 ● 町内小中学校にミルク給食設備設置
- 9月 ● 砂子沢揚水場完成

1964【昭和39年】
- 3月 ● 町内農協合併、桑折町農業協同組合発足

1965【昭和40年】
- 1月 ● 桑折町章制定
- 9月 ● 桑折町・伊達町・国見町の3町で、土木機械運営協議会発足

1966【昭和41年】
- 3月 ● 藤倉ダム工事完成

1967【昭和42年】
- 1月 ● 桑折町・伊達町・国見町消防常備部開所、業務開始
- 4月 ● 半田醸芳幼稚園を設置
- ● 桑折町体育協会設立
- 11月 ● 内之馬場浄水場完成

1968【昭和43年】
- 1月 ● 桑折町・伊達町・国見町学校給食センター完成、学校給食開始
- 4月 ● 睦合・伊達崎幼稚園を設置

1969【昭和44年】
- 3月 ● 町文化財保護条例制定
- 5月 ● 史跡「高館城の碑」建設
- ● 公立藤田総合病院新築落成

1970【昭和45年】
- 1月 ● 醸芳小学校校舎改築工事完成
- 11月 ● 初の町表彰式開催

1971【昭和46年】
- 3月 ● 桑折醸芳高等学校が閉校、県立農蚕高等学校に統合
- 9月 ● 東北縦貫自動車道建設着工(町内)

1972【昭和47年】
- 4月 ● 伊達地方消防組合発足、3町消防常備部閉鎖
- ● 桑折町・伊達町・国見町の3町で、火葬場協議会発足
- 9月 ● 福祉センター利用開始

1973【昭和48年】
- 5月 ● 町民運動場利用開始

1974【昭和49年】
- 3月 ● 「旧伊達郡役所」県重要文化財に指定
- 5月 ● 町民体育館利用開始

着実な歩みとともに町が順調に成長

昭和30年、桑折町・睦合村・伊達崎村・半田村の1町3村が合併、新桑折町が誕生し、町はその喜びにあふれました。ここからの10年間、新役場庁舎が完成し、教育・消防・道路・橋梁・住宅などの施設に要した費用は、3億240万円に達しており、事業が順調に進行していきました。そこには、誕生後、一歩一歩着実に歩んできた桑折町の姿がありました。

町では、町章が昭和40年の合併10周年記念事業として、応募総数453点の中から選ばれました。町のシンボルマークが決まり、新たな一歩を踏み出しました。また昭和49年までには桑折町・伊達町・国見町の3町で様々な協議会が発足し、近隣町と広域的な協力のもとでの住民サービスがスタートしました。

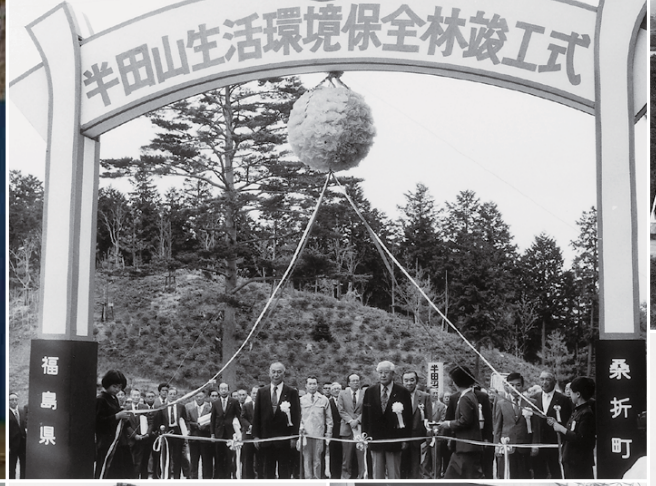
あの日あの時

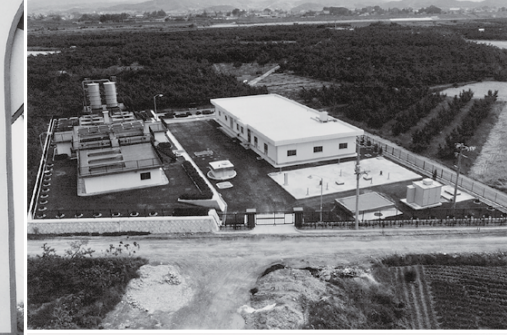
広報紙の創刊

町と町民の架け橋

【昭和36年9月】

民主政治を行うのに必要な町民の理解と信頼を得るため、昭和36年に「広報こおり」第1号が発行されました。当時の宍戸房吉町長は「町と町民各位を結ぶ架け橋として広報こおりを発行し、各位の批判をいただき、親しみのある広報紙に育てたいと思うので、絶大なるご支援とご協力をいただきたい」と新しい広報媒体に期待を持って広報発行のあいさつを寄せていました。その意志は継続され、現在まで500号を超える発行回数を重ねています。そして今では町と町民、そして町民同士の意志の疎通、コミュニケーションを図る上で欠かせない媒体に成長しています。





昭和50年 **1975**

文化・スポーツ活動が活発に。
姉妹都市交流も始まる

躍動期

平成6年 **1994**

1975【昭和50年】
- 2月 ● 3代目町長に菊田芳衛氏就任
- 4月 ● 伊達西部地区ほ場整備事業開始

1976【昭和51年】
- 6月 ● 伊達地方衛生処理組合「清掃センター」完成
- 7月 ● 町民プール利用開始
- 9月 ● 第1回桑折町・国見町交通安全町民大会開催
- 10月 ● 第1回町文化祭開催

1977【昭和52年】
- 6月 ● 「旧伊達郡役所」国の重要文化財に指定
- 10月 ● 第1回町民運動会開催

1978【昭和53年】
- 6月 ● 宮城県沖地震、本町でも被害

1979【昭和54年】
- 6月 ● 「旧伊達郡役所」半解体保存修理工事完了（塔屋復元）

1980【昭和55年】
- 1月 ● 醸芳幼稚園園舎改築工事完成

1981【昭和56年】
- 1月 ● 醸芳保育所改築工事完成
- 10月 ● 財団法人文化記念館設立　種徳美術館開館
- 11月 ● 名誉町民第1号に角田林兵衛氏

1982【昭和57年】
- 1月 ● 桑折公民館（町民会館）利用開始
- 7月 ● 青少年育成町民会議結成

1983【昭和58年】
- 2月 ● 睦合小学校校舎改築工事完成
- 4月 ● 町史編さん事業開始
- 10月 ● 砂子沢浄水場完成

1984【昭和59年】
- 2月 ● 睦合幼稚園園舎および睦合季節保育所完成
- 7月 ● 半田山生活環境保全林完成

1985【昭和60年】
- 4月 ● 老人福祉センター「大かや園」開所
- 9月 ● 町民憲章および町の花、木、鳥を制定
- 11月 ● 町村合併30周年記念事業「桑折町みんなのフェスティバル」開催

1986【昭和61年】
- 2月 ● 半田醸芳幼稚園改築工事完成
- 4月 ● 半田コミュニティセンター開所
- 8月 ● 8・5集中豪雨により伊達崎地区に冠水、浸水など大きな被害

1987【昭和62年】
- 1月 ● 伊達崎幼稚園および伊達崎季節保育所完成
- 3月 ● 桑折勤労者体育センター完成
- 4月 ● 半田山キャンプ場利用開始

1988【昭和63年】
- 2月 ● 伊達崎公民館完成
- 半田季節保育所完成

1989【平成元年】
- 2月 ● 半田醸芳小学校校舎および体育館完成
- 10月 ● 半田山自然公園落成式開催

1990【平成2年】
- 2月 ● 「西山城跡」国の史跡に指定、「善光寺式一光三尊（阿弥陀如来および両脇侍立像）」県重要文化財に指定
- 4月 ● 町民テニスコートおよびクラブハウス利用開始
- 9月 ● 4代目町長に安細隆清氏就任
- 11月 ● ふくしま駅伝初参加

1991【平成3年】
- 1月 ● 役場分庁舎完成

1992【平成4年】
- 5月 ● アメリカ合衆国ケンタッキー州のエリザベスタウン市と姉妹都市提携

1993【平成5年】
- 3月 ● 醸芳中学校校舎完成
- 4月 ● 睦合テニスコート利用開始

1994【平成6年】
- 4月 ● 桑折町民研修センター「うぶかの郷」利用開始
- 8月 ● 初の献上桃指定を受け選果式開催
- 11月 ● 「ふれあい公園」完成

町政が新たな分野へ広がり住民と一体で活動

昭和51年には文化祭が、昭和52年には町民運動会がそれぞれスタートし、文化・芸術、スポーツ活動が広がりました。また桑折町・国見町交通安全町民大会が初めて開催されたり、青少年育成町民会議が結成されたりと、交通安全、地域安全などより良い町にするための活動もスタートしました。

昭和53年の宮城県沖地震、昭和61年の8・5水害では町も被害を受け、災害への意識も高まりました。

昭和60年には合併30周年を記念し、町民憲章および町の花、木、鳥を制定しました。また、平成4年にはアメリカ合衆国エリザベスタウン市との姉妹都市提携をし、新たな国際交流事業をスタートさせ、町政は新たな分野へと広がっていきました。

平成6年には町民研修センター「うぶかの郷」が利用開始。また、天皇家・宮家へ初となる献上桃選果式が行われました。

あの日あの時

エリザベスタウン市

姉妹都市の提携へ

【平成4年5月】

曙ブレーキ工業㈱の仲介により、平成4年、アメリカ合衆国「エリザベスタウン市」と姉妹都市提携を行いました。これは地元企業の曙ブレーキ工業㈱がエリザベスタウン市に進出した縁によるもので、お互いに歴史や風土、産業などを調査・検討し、姉妹都市提携による今後の様々な分野での交流を期待しながら、エリザベスタウン市で調印式を行いました。現在でも町から団員が派遣され、またエリザベスタウン市からの訪問団を受け入れるなど、子どもから大人まで、世界がつながっていることを実感し、心温まる交流が続いています。

1995 平成7年 ◀◀ 多様化する町民ニーズに対応しながら、町の誇りを内外にPR展開

1995【平成7年】
- 10月 ● 第50回国民体育大会ソフトボール競技成年男子2部開催

1996【平成8年】
- 4月 ● 町公共下水道一部供用開始
- ● 児童館開館
- 5月 ● 皇太子ご夫妻来町
- ● 皇太子同妃両殿下行啓記念碑建立

1997【平成9年】
- 11月 ● 保健福祉センター「やすらぎ」園」利用開始

1998【平成10年】
- 4月 ● 幼稚園預かり保育開始

1999【平成11年】
- 3月 ● 睦合ふれあい会館落成式
- 4月 ● 小学校放課後児童保育開始

2000【平成12年】
- 4月 ● 醸芳保育所0歳児保育、睦合・伊達崎・半田醸芳幼稚園で3年保育開始
- 8月 ● 町学校給食センター完成

2001【平成13年】
- 3月 ● 陣屋の杜公園整備完了
- 4月 ● 伊達崎排水機場稼動
- 5月 ● 地域子育て支援センター開始

2002【平成14年】
- 9月 ● 5代目町長に林主喜久男氏就任

2003【平成15年】
- 3月 ● 地域交流センター（醸芳小学校体育館）完成
- 12月 ● 伊達7町合併協議会設立

2004【平成16年】
- 3月 ● 内之馬場浄水場完成
- 8月 ● 公立藤田総合病院新築
- 9月 ● 伊達7町合併協議会から離脱

文化や自然の魅力を活かしたまちづくりが活発に

桑折町では、従来にも増して町民ニーズが多様化し、その期待に応えるための事業が展開されました。少子高齢化や核家族化など社会環境の変化に伴い、各種の子育て支援事業に取り組みました。また、平成13年には町政に対して町民の信頼と理解を深めるために、情報公開条例が制定されました。そして平成17年1月には、桑折町が誕生してから半世紀となる50周年を迎え、11月には記念式典を開催しました。平成20年には「旧伊達郡役所」「半田山自然公園」が福島遺産100選に選定。平成21年には桑折町観光大使「ホタピー」も誕生し、「桑折ビーチライン」も開通。町の誇りを広く内外に伝えるための様々な働きかけを行いました。

平成22年から、地震などによる災害を想定した町地域防災訓練が伊達崎地区より始まりました。

2010 平成22年 ◀◀ 展開期

2005【平成17年】
- 4月 ● 桑折駅前広場完成
- 5月 ● 福島蚕糸跡地取得
- 10月 ● 奥州・羽州街道「桑折茶屋」まつり開催
- ● 元気街道フォーラム開催
- 11月 ● 町制施行50周年記念式典開催

2006【平成18年】
- 2月 ● 町営庫場団地完成
- 4月 ● 桑折町新長期総合計画「新生こおり21プラン」策定
- 6月 ● 産ケ沢川ホタル自然公園完成

2007【平成19年】
- 4月 ● 「第4次桑折町行政改革大綱」・「集中改革プラン」策定
- ● 桑折御蔵開館
- 5月 ● 「桑折代官寺西重次郎封元（たかじゅう）じろうもとの墓所」と「桑折代官藤方彦市郎忠列の墓所」が町の史跡として文化財指定
- 10月 ● 国土交通省「平成19年度手づくり郷土賞」を「奥州街道と羽州街道の追分」が受賞
- 11月

2008【平成20年】
- 1月 ● 「旧伊達郡役所」・「半田山自然公園」が福島遺産100選に認定
- 4月 ● 「桑折町こども園」スタート
- ● 御陸廼松が「無能寺の笠マツ」として県の文化財（天然記念物）に指定
- 10月 ● 羽州街道サミット開催
- 12月 ● 国道4号桑折駅入口地下歩道完成

2009【平成21年】
- 2月 ● 一般農道桑折西部線「桑折ピーチライン」開通
- ● 「桑折宿」雛めぐり始まる
- 3月 ● 街を活かしたまちづくりフォーラム開催
- 5月 ● 桑折町4地区に地区住民自治協議会発足
- 6月 ● 桑折町観光大使「ホタピー」お披露目

2010【平成22年】
- 2月 ● 小・中学校の全学級に「電子黒板」導入
- ● 伊達崎小・耐震・大規模改造工事完成
- 7月 ● 桑折町総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」設立
- 10月 ● 6代目町長に高橋宣博氏就任
- 10月 ● 県北地方防災訓練・桑折町地域防災訓練（伊達崎地区）

あの日あの時

皇太子ご夫妻行啓

桃源郷の里をご訪問

【平成8年4月】

桑折の桃が平成6年から皇室へ献上されていることが縁で、平成8年4月、皇太子殿下・雅子妃殿下が町を訪問され、阿武隈川沿いの桃畑（こおり桃源郷）を散策されました。これを記念して同年5月には、同地に「両殿下行啓記念碑」が建立されました。ほとんどのマスコミは報じませんでしたが、両殿下と福島の絆は深く、東日本大震災の後、皇族方で最初に福島県の仮設住宅を見舞われたのは、皇太子殿下・雅子妃殿下でした。桑折町の桃は、平成6年以降20年以上も連続して天皇家・宮家に献上されています。

2011年　平成23年

3.11

午後2時46分
東日本大震災発生

2011（平成23年3月11日～3月31日）

町を襲った巨大地震　さらに原発事故による町土汚染

2011. 3.11	午後２時46分　東日本大震災（震度６弱）発生
	桑折町災害対策本部設置
	４地区に避難所開設
3.14	東京電力（株）福島第一原発事故により町土放射能汚染
3.17	相双地区からの被災者受け入れ
3.24	福島蚕糸跡地に応急仮設住宅建設開始
	震災による被災家屋調査開始

平成23年3月11日午後2時46分、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震が東日本全体を襲いました。浜通りでは、震度6強を観測したほか、沿岸部には最大波9.3m以上の大津波が押し寄せ、3,300名を超える尊い命が奪われました。

町内では震度6弱を観測、地震の揺れにより液状化現象・地盤沈下などによって、多数の家屋被害や道路の陥没、町の施設も郡役所をはじめ大きな被害を受けました。

さらに、東京電力（株）福島第一原子力発電所が津波の被害を受けて原子炉が制御不能となり、放射能漏れ事故を発生させました。この原発事故によって、町土が放射能で汚染されました。

2011 平成23年

ともに苦難を乗り越え、新しい未来へ

2011【平成23年】

- 4月 こども医療費助成対象年齢を15歳まで引上げ
- 5月 幼稚園児の給食費無料化
- 6月 仮設住宅入居開始
- 7月 園庭・校庭の表土除去作業開始
- 東京都荒川区と災害時相互応援協定締結
- 8月 幼稚園・小・中学校にエアコンを設置
- 9月 広報こおり第500号発行
- 浪江町避難者の支援に関する協定締結
- 積算線量計（ガラスバッジ）配布
- 米の放射性物質モニタリング調査の結果、出荷可能となる
- 10月 桑折町地域防災訓練（桑折地区）
- 原発事故対策室設置
- 11月 こおり復興除染計画策定
- 桑折町農地等放射性物質低減化対策協議会設立
- 12月 果樹除染開始
- 食品放射能測定開始（桑島分庁舎）

2012【平成24年】

- 2月 桑折町除染対策支援事業組合設立
- 桑折町総合計画「復興こおり創造プラン」策定
- 3月 ホールボディカウンタによる内部被ばく測定開始（やすらぎ園）
- 4月 復興こおり創造フォーラム開催
- 4地区の仮置場説明会開催
- 桑折町放射能対策推進町民会議設立
- 中央公民館閉館
- 7月 町内除染作業開始
- 8月 上山市と災害時相互応援協定締結
- 9月 米の放射性物質全量検査開始
- 10月 七ヶ宿町・高畠町と災害時相互応援協定締結
- 桑折町地域防災訓練（睦合地区）
- こども医療費助成制度を18歳まで拡大

未曽有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた「こおり新時代」をめざして

東日本大震災と原発事故災害により、本町を取り巻く環境は激変してしまいました。この未曽有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた「こおり新時代」を目指して確かな復興を図るため、平成24年2月に「復興こおり創造プラン」を策定。

「町土の除染なくして復興なし」「町民の健康なくして復興なし」「町民の安心なくして復興なし」を3大スローガンに掲げ、町民全てが安心して将来にわたり住み続けられるまちづくりを進めています。

平成23年には近隣市町に先駆けていち早く仮設住宅を建設しました。また、食品放射能濃度測定を開始しました。

平成24年3月にはホールボディカウンタによる内部被ばく検査、7月からは仮置場が設置された地区から除染作業が開始されました。

2013 平成25年

復興期

2013【平成25年】

- 2月 浪江町との災害公営住宅整備協定締結
- 4月 旧伊達郡役所保存修理工事着工
- 5月 映画「物置のピアノ」桑折町応援団設立
- 6月 中央公民館分室（図書室）開館
- 7月 桑折駅北側公園開園
- 天皇皇后両陛下行幸啓（町内通過）
- 8月 メール観光と災害時における人員輸送等の協力協定締結
- 10月 桑折町地域防災訓練（平田地区）
- 相馬福島道路中心杭設置式
- 県LPガス協会県北支部と災害時協力協定締結
- 11月 中央公民館分室の愛称が「遊学館よも～よ」に決定
- 12月 「辛口桑折」新酒発表

平成25年には桃農家激励のため、天皇皇后両陛下の行幸啓がありました。また、被災した桑折町を舞台とした映画「物置のピアノ」の撮影も行われ、少しずつ町の復興が加速していく姿が発信されました。

広がる絆の輪 雛まつりの開催

まちなかの各家での展示が定着

毎年春に、まちなかで開催されている「雛まつり」。町の店や個人宅のお雛様を、各家で飾ってもらっています。いまでは60軒以上に雛壇や雛飾りが飾られ、多くの人々が訪れるまつりに成長しました。飾られるのは、江戸時代から平成に至る様々な雛壇飾りや、手作り雛。雛づくりは、浪江町から避難されている方々とも協力し、また町内の小学生たちも授業で実施するなど、老若男女が町や地域の枠を越え、心ひとつに取り組んでいます。

雛まつり期間中、民家で飾られた雛壇飾りを公開。

あの日あの時 旧伊達郡役所復旧

東日本大震災により大きな被害を受けた、町のシンボルで国指定重要文化財「旧伊達郡役所」。修復にあたっては「原状回復」を行いながら、今後再び大地震に見舞われることがあっても大破しないよう、文化庁の指導の下、耐震補強を施しながらの丁寧な保存修理工事が行われ、震災から丸3年後の平成26年4月、ようやく、再びその威容を現しました。

復興期

ともに苦難を乗り越え、
新しい未来へ

平成26年 2014

2014【平成26年】

- 2月 映画「物置のピアノ」特別試写会開催
- 3月 災害公営住宅建設工事着工
- 4月 旧伊達郡役所保存修理工事完了
- 5月 旧伊達郡役所周辺整備事業竣工式
- 安倍総理大臣が大和団地仮置場を視察
- うぶかの郷20周年記念式典及び大感謝祭
- 桑折町観光キャンペンクルー「スマイルビーチ」お披露目
- 6月 根本復興大臣が復興状況を視察
- 屋内プール・多目的スタジオ等複合施設建設工事着工
- 県町村会から「優良町村」受賞
- 7月 第10回羽州街道交流会（桑折町開催）
- 石原環境大臣が復興サポート活動で桃農家と選果場を訪問
- 8月 広島平和記念式典に小学生を派遣
- 山形県鮭川村と災害時相互応援協定締結
- 映画「物置のピアノ」一般上映
- 9月 相馬福島道路（霊山～福島間）起工式
- 10月 桑折町地域防災訓練（4地区合同）
- 「こおりEXPO2014」「ふくしまバーガーサミット2014 in 桑折」開催

平成26年4月には、震災により被害を受けた旧伊達郡役所の保存修理工事が完了し再オープンしました。5月には、桑折町観光キャンペンクルー「スマイルビーチ」が県内外に向け町のPR活動を開始しました。また、10月には桑折町商工会主催による「こおりEXPO2014」「ふくしまバーガーサミット2014 in 桑折」が開催され、商店街が多くの来場者で賑わいました。

あの日あの時

「物置のピアノ」上映

桑折町を舞台に映画制作

【平成26年8月】

桑折町を舞台に、町の美しい風景、おいしい果物、やさしい人柄がきれいに取り込まれた映画「物置のピアノ」が制作され、平成26年8月、福島での先行上映が行われました。劇場はこの日を心待ちにした大勢の人たちで埋め尽くされ、この日を迎えた喜びと感動に包まれました。大切なもの、桑折町の美しさに「ふっ」と気づかされる温かい作品になっており、また地震・津波・原発事故・風評と、県内で起きたことが全て盛り込まれました。桃農家が風評に苦しむ姿なども含めて現状を広く知ってもらい、桑折町との新たな絆を生み出すことが期待されています。

歴代町長・議長・名誉町民

【歴代町長】

第6代
高橋 宣博

第5代
林王 喜久男

第4代
安細 隆清

第3代
菊田 芳衛

第2代
宍戸 房吉

初代
早田 傳之助

【歴代議長】

第11・12代
山川 角蔵

第10代
亀岡 義彦

第9代
近藤　清

第8代
栗花 儀兵衛

第6・7代
安細 喜太郎

第2代
宍戸 房吉

初代・3～5代
朽木 久三郎

第19代
半澤　高

第18代
浅野 義雄

第17代
高橋 宣博

第16代
奥山 敏夫

第15代
近藤　宏

第13・14代
佐藤 義夫

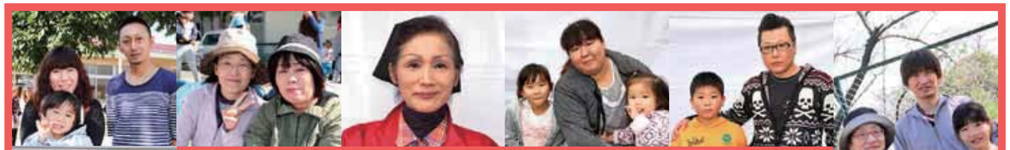
名誉町民（故人）

【角田 林兵衛】

文化の殿堂・種徳美術館を寄贈

角田林兵衛氏は、郷土のなお一層の文化の向上を念願されて昭和56年に美術館、美術品、松尾芭蕉行脚像など私財2億8,300万円相当を桑折町に寄贈しました。その功績をたたえ、名誉町民に推戴されて、同年11月に推戴状授与式が行われました。

種徳美術館は、歴史を感じさせる町なみに調和した外観で、1階・2階ともゆったりとしたロビーと展示室があります。そこには、江戸・明治期の代表的作者による書画約160点が収められています。オープンから34年経つ今でも、旧伊達郡役所とともに町の文化のシンボルとなっています。



まちの歩みとともに60年

60TH TOWN KOORI

阿部　勉 30代・松原中
のどかな町桑折町！

阿部　清子 60代・松原中
子どもがたくさんいる町にしたい。

阿部　みずき 10代・松原中
友達がいっぱいて楽しい。

亀岡　雅弘 40代・荒屋敷
半田山が大好きです。

佐藤　香織 30代・南町
自然がいっぱいのところが好き。

田中　信次 40代・田町
豊かな自然と優しい人。子どもの笑顔が自慢。

鈴木　キヨ子 50代・追分
子どもたちの夢と未来のためがんばります。

岩城　智美子 50代・下郡下
子どもたちが楽しく遊べる室内の場所・施設があればいいですね。

松原　裕子 30代・東上町
桑折町は自然がいっぱいで人は優しくて最高です♡

佐藤　淳子 40代・下高屋
住みやすい桑折町が大好きです!!

岡﨑　誠次 30代・桑島西
あったかい桑折町が大好きです!!

橘内　睦 40代・本町
子どもを育てるには、良い環境の町です。

大槻　隆徳 30代・追分
いつまでも緑豊かで穏やかな町でありますように。

真柄　しげこ 60代・追分
すばらしい人間性。優しい町。全てが大好きです。桑折町万歳！

渡邉　璃音 10歳未満・西上
こおりのおまつりがにぎやかでたのしい。

大槻　町子 50代・中郷
おいしい桃と米、明るく住みよい町。これからも発展してほしい。

大野　康仁、智子 40代・北町
愛する桑折町。生まれて良かった桑折町。

水口　梢 20代・北沢
さおり織が大好きです。輪楽創（わらっく）に見に来てください。

髙橋　徹 60代・東上町
障がいの有無にかかわらず、共に楽しく生活する町。

板井　麻由美 20代・桑島
桑折町のお祭りが大好き♡

二瓶　こころ 10代・桑島
人がとても温かく、大好きな町です。

木村　徳衛 70歳以上・上成田
献上桃の町。果物が盛んです。

本間　俊之介 10歳未満・桑島西
ぼくはうぶかの20周年が楽しくて、うぶかが大すきになりました。

菅野　朋子 50代・松原中
桑折町に生まれ育って60年になります。一緒に大人になりました。

矢木　由美子 50代・西上
生まれも育ちも桑折町。途中ちょっと町外へ。やっぱり桑折町最高！

古山　千恵子 40代・上郡上代
桑折町いい所だね！人柄も自然も大好きです。

岡田　真知子 60代・荒屋敷
障がい者も健常者も共に生きる町にしたいと思います。

髙橋　民子 60代・舘沢
孫たちの成長が楽しみです。

齊藤　洋子 50代・下成田
四季折々の草花がたくさん咲いて、自然豊かな町であってほしい。

藤田　則子 50代・桑島西
春になると桃の花が咲いてとてもきれいです。

TH

～私たちは桑折町が好き

まちの歴史を刻んで60年。
ここで暮らす幅広い年代の町民60人に、
まちへの想いを語っていただきました。

渡邉　貴弘 30代・下郡上代
子どもたちがのびのび成長できる場所が桑折町です。

佐藤　みさ子 50代・西上
自然豊かな桑折町。花と緑、小鳥のさえずりがすばらしい町。

澤崎　和也 30代・北郷
自然にあふれている優しい町。

佐藤　健太 40代・追分
100周年目指してみんなでガンバロー！

渡部　さほり 30代・追分
一度離れて改めて桑折の良さがわかりました。桑折大好き。

渡邉　希亜 10代・桑島西
桑折町は、みんな仲が良いのが自慢です。

木村　凛 10歳未満・上成田
しぜんがきれいなところがすきです。

齊藤　正裕 30代・上成田
生まれ育った町が大好きです。

齊藤　香織 20代・上成田
おいしい果物がいっぱいで、すてきな町。

宍戸　杏妃 10代・西町
エリザベスタウンと交流しているところが自慢です♡

渡邉　妙子 30代・諏訪
これからの子どもたちが住みやすい町づくりを。

大野　真季 30代・本町
子どもたちの笑顔があふれる町になってほしい。

松原　三郎 70代以上・西町
町全体がおだやかで町民は仲良しで暮らしている。

佐藤　敏彦 30代・諏訪
自然が多く、果物がおいしい事が自慢！

松原　正美 30代・西町
子どもも大人もみーんな仲良し♡桑折で楽しく年をとる!!

松原　篤史 30代・桑島
子育てのしやすい町♡緑いっぱいで住みやすいです!!

羽根田　耕大 30代・下高屋
いつまでも笑顔のたえない町で!!

羽根田　愛 30代・下高屋
子どもたちの笑顔と元気がいっぱいの町になりますように!!

松崎　美代子 50代・南町
自然が豊かで子どもたち、孫たちが元気で成長できる町。

佐藤　博紀 30代・久保八幡
いつまでも外で子どもたちが安心して遊べるようにしてほしい。

佐藤　正英 60代・久保八幡
孫に出身地を自慢出来る町でいてほしい。

櫻井　祐加 20代・田町
子どもたちがあいさつをよくしてくれるのが嬉しいです。

菅野　朱美 20代・下高屋
もっと子どもが遊べる所がほしい。

丹野　美佳 30代・六丁目
みんなのんびりしててよろしい。

佐藤　雄亮 30代・上郡上代
きれいな桑折町でいてほしいです!!

岡崎　考敏 30代・松原下
桑折町最高!!これからも自然最高!!

岡崎　弘子 30代・松原下
毎年のうぶかの郷の蛍楽しみにしてます。守ろう自然・守ろう蛍。

佐藤　裕 30代・中北
B-1グランプリで優勝して活性化してください!!

渡邉　健児 30代・追分
子どもたちが安心してくらせる町。

熊谷　友樹 30代・荒屋敷
「団結力の強さ」今以上に魅力的な町になることを期待してます!!

未来へ

私たちは、桑折町が大好き。
子どもからお年寄りまで、この町に生きるみんなが
桑折町の「今」を築き、その積み重ねが未来を拓いていく。
私たちは、歩むことを止めない。
大切に守ってきたまちの魅力を未来に伝え、
今の私たちが、明日の新しい宝物を生み出していくために。

半田銀山は江戸時代、「三大鉱山」に数えられるほどに栄えた。半田銀山史跡公園には、明治時代、銀の鉱滓を運ぶための軌道と奥州街道が立体交差するために架けられた女郎橋の石垣が遺跡として残されている。

奥州街道と羽州街道の分岐点「追分」。平成18年に整備されて以来、訪れる人は後を絶たない。

伊達氏始祖朝宗の墓所。桑折を本拠地として、伊達氏が誕生した。

西根上堰と産ヶ沢川の合流点。約400年前ほどから長く安定した用水を確保している。

歴史文化を活かしたまちづくりへ

～まちの遺産を未来へ

交通の要所として栄えた政治経済の中心地

桑折町は、仙台藩伊達氏発祥の地として知られ、奥州街道・羽州街道の分岐点の宿場町として繁栄しました。江戸初期、米沢・伊達郡を含む米沢30万石に減封された上杉氏領の時、郡役だった佐藤新右衛門たちは新田開発のために、農業用水「西根堰」を造りました。さらに、半田銀山の開発や蚕種生産を奨励し藩の財政を立て直しました。貞享2年（1685）に、幕府の陣屋が桑折町に置かれました。それは幕府が桑折町を、政治経済の中心地として重視していた証です。当時「桑折」の名は、江戸や上方にも知られるほどでした。

活気にあふれた街道や半田銀山を語り継ぐ

羽州街道を通って、街道の分岐点「追分」を参勤交代で通過する諸大名は十数家にも上り、街道は大いに賑わいました。また、多くの文化人が通ることで、人や物だけでなく、文化や情報も行き交い、これが日本各地の学問や技術などを宿場にもたらし、町に活気を与えました。「江戸時代の桑折町民の文化レベルは高かった」と、町の郷土史研究家・鈴木文夫さんは話します。

町では、街道を通じて交流を深めている他地域の活動に触発され、平成18年、「追分」を整備しました。以降、往事をしのぶ場所として親しまれ、この地を訪れる人は後を絶ちません。句碑に刻まれた「夕暮れに 心の通う 柳かな」に、この追分を見守る猪俣好巳さんは「ここは昔から人々が集い、心を通わせる場所だった。これからもそうあってほしい」と思いを寄せ、書籍「桑折学のすすめ」の編さんに携わった渋谷浩一さんは、「小学校高学年以上の子どもたちにも町の歴史に親しんでほしい」と次世代への継承に期待を寄せます。

江戸時代からの半田銀山の繁栄は、明治9年（1876）に明治天皇も行幸されるほどでした。交通の要衝に位置していた桑折は、明治16年には「伊達郡役所」が置かれ、郡一帯の政治の中心地となりました。その木造擬洋風建築物は、現在も国指定重要文化財として現存し、町のシンボルとして親しまれています。

現在、奥州街道は県道で、商店が立ち並ぶ町のメインストリートとなっていますが、土蔵など、宿場町の繁栄を今に伝える歴史的建造物が点在しています。その線形は、江戸期の絵図に描かれた奥州街道の当時から大きく変わることなく残され、鉤形に曲がる箇所に置かれた旧伊達郡役所が、ランドマークの役割を果たしています。

町のシンボルとして親しまれている旧伊達郡役所。当時の熱心な誘致運動により設置が決定し、建築費用はすべて町民の寄付によるものだった。

右から 鈴木文夫さん、猪俣好巳さん、渋谷浩一さん

奥州・羽州街道分岐点（追分）にて。各氏は、街道にまつわる町の歴史文化について研究。冊子の編さんや町内外の歴史交流会に関わり、歴史の町並み再興にも大きく尽力している。

歴史ある祭りの継承

地域の歴史ある祭りとして、伊達氏の守護神として800年の歴史を持つ桑折の総鎮守である諏訪神社の祭礼が、毎年7月27・28日に例大祭として継承されています。この祭りは豊作を祈願し、山車5台が2日間町内を練り歩き神輿と山車のぶつかり合う勇壮な祭りとして知られ、6年に1度、御柱祭が行われています。

「奥州街道・羽州街道追分の復元」や「店蔵を活用した交流拠点『桑折御蔵』の運営」などで、地域住民と町が協力し、歴史的な環境に係る取り組みを活発に進めています。県道沿いを中心に町屋や土蔵などが残っており、「桑折御蔵」と名づけられた店蔵は、大規模な外観修理が行われ、交流発信拠点として利活用されています。奥州街道・羽州街道追分にあっては、平成18年に資料等に基づいた整備が行われ、江戸期に現存した道標を復元しお休みどころが建てられ、平成19年に国土交通省の「手づくり郷土賞」を受賞しました。

伊達ロマン 桑折西山城跡を後世へ

また、戦国期に伊達氏の14代種宗が構えた町の北西部の広大な山城、この居城跡の山城は、「桑折西山城跡」として平成2年に国史跡に指定されました。現在は、史跡公園としての整備のための発掘調査が終了し、戦国時代の堀などを史実に基づいて整備し、周辺に駐車場や道路等の整備を行う「歴史的風致維持向上計画」の認定にむけて取り組んでいます。

戦国大名伊達氏の本拠地桑折西山城跡。史跡整備に向けて発掘調査が行われた。

献上桃の選果式には、スマイルピーチも参加し、町をあげて桃の魅力を発信している。

安全・安心な果物の生産に向け、農地除染（果樹）を実施。

平成 26 年、石原伸晃環境大臣（前列中央）が桑折町を訪問。

そば打ち実演を熱心に見学する子どもたち。

町に広がるそば畑。半田銀山そばの会で栽培し、刈り取りを行っている。

桑折町の新たなブランド

～明日への願いを込めて

未来へ

伝統の「半田銀山そば」を復活

桑折町の魅力を発信するために、町では新たな動きが生まれています。その一つが「半田銀山そば」です。その昔、銀が採掘されていた半田山の裾野にはあまり肥料を必要としないそば畑があり、かつて夕食は、ほとんどそば料理が食べられていました。その伝統を復活しようと平成24年1月に発足した「半田銀山そばの会」では、東日本大震災の風評被害や農作物のイメージ打開をめざし、そば栽培とそば打ちの実践を行ってきました。平成24年には「半田銀山そば」を商標登録（そばでは県内2番目）。そして平成26年6月からは「銀そばを食べる会」を毎月開催しています。会長の氏家浩さんは「銀そばを新たな名物として沢山の人に食べてもらいたい」と意気込みます。同年11月にはイベントにも参加し、うちたての幅広そばを煮込んだ桑折町の郷土料理「そばでんちん」を販売、汗だくで完売し、「おいしくて食べごたえがあり、満腹感がある」と評判も上々でした。そばの会ではますます活動を進め、地域活性をめざして桑折町を元気にしていきます。

そばの郷土料理「そばでんちん」。でんちんは「でっちる」こねるという意味で、手早くこねて延ばして短く切って煮込む料理です。

「郷土の名物料理をぜひ皆さんに食べてほしい」と語る半田銀山そばの会 会長の氏家浩さん

日本酒「辛口桑折」を完成

もう一つの新名物が、日本酒「辛口桑折」です。企画した「桑折醸会」では、町を元気づけるため原料はあくまで「桑折産」にこだわりました。酒米「夢の香」は、町内の農業法人に生産を委託、水は町自慢のおいしい天然水「香村金剛水」を使い、正真正銘の地元ブランドの酒を誕生させました。醸造は喜多方市の蔵元に依頼。完成した酒に会長の鈴木清幸さんは、「飲み口が良く、スッキリとしたおいしい酒ができた」と手ごたえを感じました。「辛口桑折」は、平成25年12月に販売を開始し、なんと一週間で完売という予想をはるかに上回る売れ行きに驚き、喜んでいます。この「辛口桑折」は、「町に元気を」という願いでつくられたことから、町内のみの販売に限定しています。そこには「お酒を買う」ことが、町を訪れるきっかけになればいい、という醸会メンバーの思いも込められています。「町民の「心」までは被ばくさせられない。町の人たちの「心」を元気にしたい。だから、辛口桑折を突破口に町をもっと元気にしていきたいと思います」と鈴木会長は語ります。

原料をすべて町内産にこだわった「辛口桑折」
「地元ブランドのお酒をぜひどうぞ」と語る桑折醸会 会長の鈴木清幸さん

桃の魅力を未来へ

～最高の味を人々にお届け

未来へ

桑から桃へ、町の誇りを継承

桑折ブランドの桃づくりは、かつて町の養蚕を支えた桑の木を伐採し、そこに桃の木を植えることから始まりました。「桑と桃は、栽培条件がとても近かったことが幸いしました」と桃農家の佐藤秀雄さんは語ります。

かつて全国に名だたる製糸工場があった桑折町。桑園や養蚕技術の改良で生糸の生産を支え、全国に桑折の名をとどろかせた、という誇りが町民にはありました。その養蚕業が衰え、自信を失いかけた時に、町の農家はもう一度立ち上がったのです。当初「れ-13号」という番号で呼ばれて栽培された桃には「あかつき」という名がつき、福島の名高いブランドとして定着しました。糖度・形・色・おいしさ、すべてにおいて全国に誇る品質の桃です。このあかつきは平成6年以降連続して、「天皇家・宮家への献上桃」という大役を果たしてもいます。

これほどまでに桃畑が広がっているのは、日本のどこにもない。本当に恵まれた肥沃なこの農地を活かしていきたい、と語る親さん。

震災、高齢化を越えて未来へ

桑から桃への転換によって、町は全国への誇りを取り戻しました。しかし、東日本大震災・原発事故が発生し、桑折の桃も風評被害に悩まされます。秀雄さんの息子、親さんもその一人でした。震災前までの桃は順調でしたが、震災後は苦しい経営を強いられています。また震災によって農家の高齢化・後継者問題が加速度的に進み、町では畑を止める人なども増えてきました。それらの畑への対応も町の大きな課題です。しかし、親さんは悲観していません。明るい未来を見据えています。

つくる喜びや町の誇りをつなぐ

「震災後、町に避難してきた方や、志のある若者が農家に新規参入するケースが、少しずつ増えているんです」親さんは「やる気のある人なら、桑折の桃の品質を継いでいくのは誰でもいい。外の人がくると活気も出ます」と語ります。もちろん、いろんな人の力を借りるとなると、仕事をある程度マニュアル化しなくてはならず、教えるのも大変です。しかし親さんは「次世代のために、バトンを渡す人に恥ずかしい仕事はできません」と熱く語ります。そして桑折の肥沃な農地で、食べ物を自分たちで作る喜びや、これまで築いてきた町の誇りを、より多くの人々につないでいきたい。そう佐藤さん親子は口を揃えます。

佐藤秀雄さん　親さん
代々農業を営む。昭和50年に桑畑の桑の木をすべて伐採して、桃に完全に切り替えた。秀雄さんは小学校で子どもたちに農業体験をしてもらう活動もしている。長男の親さんは「桑折は全国的に見ても本当に恵まれた肥沃な土地だ。これを活かさないのは本当にもったいない」と語り、未来へ農業のバトンをつなごうと奮闘している。

いまと未来を描く

～ 桑折町のまちづくり絵画コンテストの最優秀賞・特別賞受賞作品をここに紹介します。～

これまでも、これからも。
未来を築くのは、まちを愛する子どもたち。
子どもたちが大好きなふるさとを描き、
みんなの幸せな明日を願ったとき、
夢あるまちの未来が花開きます。

最優秀賞 ドリーム賞
みらいのこおりまち
伊達崎小学校1年 大槻 珠子 さん

山があって川があって、
自然ゆたかな桑折町がすき、
これからもみんなと楽しくすごしていきたい。

最優秀賞 ラブリー賞
だいすきこおりまち
睦合幼稚園 年長 朽木 陽斗 くん

半田沼にホタビーとぼく。
まわりにはたくさんの
ホタルが光ってる。
自然ゆたかなこおりまちが
だいすき。

最優秀賞 ラブリー賞
おまつりわっしょい
醸芳小学校1年 加藤 莉緒 さん

おまつりだいすき。
ともだちや家族と、
これからもずっとおまつりを
たのしみたいです。

最優秀賞 ドリーム賞
近くで見たいカラフル新幹線
醸芳幼稚園 年少 菅野 斗吾 くん

新幹線が大好きで、
駅によく見にいきます。
みんなで、
こんなカラフルな
新幹線に乗れたらいいな。

桑折町長賞 ラブリー賞
桑折町の名所
伊達崎小学校5年 相原 悠人 くん

桃畑や半田山……
家から見える風景をかきました。
これからも大好きな桑折町で
楽しく暮らしたいです。

最優秀賞 ラブリー賞
キラキラ輝く魅力いっぱい桑折町
醸芳中学校1年 木村 悠希 くん

自分の好きな桑折町を
すべて盛り込みました。
これからも町の大切なものを
守りながら暮らしていきたい。

桑折町商工会長賞 ラブリー賞
郡役所
醸芳小学校6年 佐々木 梨乃 さん

いつも、あって当たり前のように
見ているけれど、町の誇りとして
大事に守っていけたらいいと
思っています。

桑折町教育長賞 ラブリー賞
家族で桃とり
睦合小学校1年 浅野 妃那 さん

うちは桃農家。
家族みんなで桃とりは、
とっても楽しいです！
ホタビーも大好き。

最優秀賞 ドリーム賞
しあわせを運ぶひまわりかんらん車とひまわりゆうえんち
睦合小学校4年 及川 京 さん

こんなかんらんしゃを
桑折町につくって、
ともだちといっしょに
あそべたらいいな。

最優秀賞 ラブリー賞
桑折を見守る常源寺
県立大笹生養護学校2年 斎藤 真人 くん

いつも、ながめているお寺です。
自分の大事な宝物を描いて、
みなさんに感動や元気を
与えられたらいいなと思います。

最優秀賞 ラブリー賞
残したい風景
醸芳小学校5年 佐藤 光吏 くん

この神社のそばに住んでいます。
神社のお祭りにみんなと
一緒に出かけるのが、
毎年楽しみです。

半田醸芳幼稚園

醸芳幼稚園

未来を担う

ここに集う子どもたちの明るい声が、笑顔が、
人と町と夢を結んで、未来を築いていきます。
未来を担う桑折町の顔、顔、顔……。
一人ひとりが輝いています。

友達と心豊かに元気よく活動する子どもづくり

こども園

育成目標

心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成する。

○丈夫な体を持つ子ども
○友達とよく遊ぶ子ども
○進んで活動する子ども

重点目標

0歳時　個々の生活リズムや五感の働きを大切にしながら生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
1歳時　感情を素直に表現して周囲のものや人にかかわり、受け入れられる快さを感じて過ごす。
2歳時　自分でしようとする気持ちを大切にしながら、模倣遊びや動き・言葉などを広げていく。
3歳時　基本的生活習慣を身につけ、友達と触れ合いながら好きな遊びを十分に楽しむ。
4歳時　基本的生活行動を身につけ、友達とかかわりながら、心身を働かせて様々な遊びを楽しむ。
5歳時　友達と力を合わせたり自分なりに目的を持って活動に取り組んだりしながら、集団生活を楽しむ。

伊達崎幼稚園

睦合幼稚園

教育目標

○健康で明るい子ども　〈体〉
○よく考えて学ぶ子ども　〈知〉
○親切で思いやりのある子ども　〈徳〉

学校紹介

6年生みんなに「醸芳小学校の自慢すること、頑張っていること」を聞きました。その結果を紹介します。

第1位　明るくあいさつがよい
第2位　歴史ある学校と名前
第3位　無言移動と無言清掃
第4位　学習も運動も仕事も、あきらめない　など

醸芳小学校は歴史が古く、数多くの先輩方が伝統を築いてきたすばらしい学校だと思います。これから先も伝統を大切にし、何事にも頑張る醸芳小学校にしていきます。

6年　大内　夢さん

醸芳小学校

こつこつ とことん あきらめない
子どもの育成をめざして

睦合小学校

見上げる心 かがやく目をもった
子どもを育む

学校紹介

睦合小学校は全校生 90 人の小さな学校です。下級生から上級生まで学年関係なく、みんなが仲良しです。休み時間には学校の校庭からいっしょに遊ぶ元気な声が聞こえてきます。

睦合小学校は今年 140 周年を迎えました。元気と歴史がある小学校です。これまでのよい伝統を引き継いでいきたいと思います。

6年　熊田 愛莉さん

教育目標

「向上心を持ち
実践力のある児童の育成」

未来を担う

教育目標

○思いやりのある子　〈徳〉
○たくましい子　〈体〉
○考える子　〈知〉

学校紹介

私たちは、「元気いっぱい　笑顔いっぱい　夢いっぱい」を合言葉に生活しています。清掃やわんぱくタイム、集会活動では、たて割り班で活動したり、遊んだりしているので、違う学年の友達とも仲が良いのが自まんです。日本三大銀山の半田銀山、半田祇園囃子など地域の歴史と伝統を学び、大切にしながら頑張っています。

企画委員会委員長　志賀 茉凜さん

半田醸芳小学校

「元気いっぱい 笑顔いっぱい
夢いっぱい」の半田っ子

伊達崎小学校

授業づくりは 学級づくり
学級づくりは 人づくり

基本方針

1　子どもに寄り添い、授業を第一に…。
2　指導と対応は、組織を生かして…。
3　共通理解と共通指導で…。
4　不祥事防止五つの約束…。

学校紹介

ぼくたちの伊達崎小学校は、明治5年に開校した歴史のある学校です。そして、努力と練習を積み重ね第 10 回ロサンゼルスオリンピックでボクシングフェザー級に出場を果たした亀岡勝雄さんの母校でもあります。元気にあいさつができることと、全校生が仲良しで、楽しく遊んだり活動したりできることが自慢の学校です。

6年　藤倉 聖也くん

桑折町章

片仮名３字で「コオリ」を表し、上半円で「コ」、下部で「オ」、中の白地で「リ」、全体的に弧を画く鵬（おおとり）で、桑折町の「和」と「飛躍」を表しています。また、平仮名の「こ」に半田山を象徴しています。

（昭和 40 年制定）

町民憲章

桑折町は阿武隈川の清い流れと、緑につつまれた半田山のふもとにひらけた古い歴史をもつ由緒ある町です。わたくしたちは、この町の伝統ある歴史と文化、恵まれた自然環境を守り、さらに活力ある町に育て後世に引き継ぐために、町民みんなの誓いとしてここに町民憲章を定めます。

1. 歴史と伝統を尊び、かおり高い、文化の町をつくりましょう。

1. 恵まれた自然を愛し、環境を整え、緑の町をつくりましょう。

1. 心身をきたえ、健康で、明るい町をつくりましょう。

1. 勤労にはげみ、活力ある、豊かな町をつくりましょう。

1. きまりを守り、助け合う心を育て、住みよい町をつくりましょう。

（昭和 60 年制定）

町の木／「カヤ」「アカマツ」

桑折の大地が育んだ緑。どっしりと根を下ろし、町の四季を見守っています。

町の花／「桃」

桑折の春を花霞で美しく彩ります。実の桃は町を代表する逸品です。

町の鳥／「カッコウ」

夏の訪れを告げる鳴き声。美しさの中に愛嬌があります。

生きる力を育み、社会に貢献できる生徒づくり

醸芳中学校

学校紹介

醸芳中学校には自慢できるところがたくさんあります。まず、醸中生の清掃への意識が高く、熱心に取り組んでいます。そのため、いつもきれいな校舎で勉強することができます。また、生徒会活動も活発に行われています。これからも、このような良い点を継続して、地域の方々からも「素晴らしい学校」と言われるように、頑張りたいと思います。

生徒会長　齊藤　健くん

教育目標

基礎・基本を身につけ、
社会に貢献する生徒の育成

自　学
［進んで学び、ねばり強く実践する生徒］

奉　仕
［思いやりがあり、集団に貢献する生徒］

発行年月日／平成 27 年 1 月
発　行／桑折町役場
福島県伊達郡桑折町字東大隅 18
TEL.024-582-2111
URL http://www.town.koori.fukushima.jp